

独立行政法人大学改革支援・学位授与機構評議員会（第56回）議事要旨

- 1 日 時 令和6年3月18日（月）15:32～16:20
- 2 場 所 学術総合センター11階1112会議室（オンライン併用）
- 3 出席者 相原、石井、小原、近藤、佐々木、島田、高橋、谷口、曄道、永田、西尾、林、ビール、藤井の各評議員
（上原、大野、芝井、田中、横手の各評議員は委任状提出）
福田機構長、光石理事、絹笠理事、小笠原監事、柴監事、森山審議役、佐藤審議役、戸田山研究開発部長、吉川研究開発部主幹、阿部管理部長、吉田評価事業部長、上原大学連携・支援部長、梶原助成事業部長、高比良調査役、ほか機構関係者

4 評議員会（第55回）議事要旨について

令和5年11月に書面審議とした第55回の議事要旨（案）が確認され、確定版として了承された。

5 議 事

《審議事項》

（1）機構長の任命について

次期機構長候補者が会議の時点で未確定のため、文部科学省から連絡があり次第、3月中に書面審議を行うことが承認された。

（2）第5期中期目標、中期計画（案）及び令和6事業年度計画（案）について

第5期中期目標、中期計画（案）及び令和6事業年度計画（案）について審議が行われ、原案どおり承認された。

また、今後、修正の必要が生じた場合は、会議後会長に確認の上機構長一任とすることとされた。

（3）令和6年度機構内予算について

令和6年度機構内予算について審議が行われ、原案どおり承認された。

また、今後、修正の必要が生じた場合は、会議後会長に確認の上機構長一任とすることとされた。主な意見は以下のとおり。

（○：評議員 ●：事務局、以下同）

- 助成業務等勘定について、成長分野をけん引する大学・高専の機能強化に向けた基金の令和4年度第2次補正予算額が約3,000億円となっているが、10年間にわたって、毎年約300億円ずつ支出されていくと考えてよいか。
- 支援1は10年間公募を行う計画であり、事業期間としては最長20年間となる。そのため、毎年約300億円ずつ支出するというよりは、最長20年間で約3,000億円使っていく見込となる。
- 内訳としては、人件費以外の施設費が上積みされているという理解でよろしいか。

- ご認識のとおりである。事業として大半を占めるのが施設費のため、そのような内訳となっている。
- 一般勘定について、令和6年度は支出超過となるのか。
- 主な理由として、機関別認証評価の評価対象校数が少ないことにより、支出が手数料収入を上回るため、全体としても支出超過となっている。ただし、令和6年度に全ての支出が生じるわけではないこと、また令和6年度の手数料収入もあることから、資金が不足することはない。

(4) 職員給与規則の改正について

職員給与規則の改正について審議が行われ、原案どおり承認された。

《報告事項》

(1) 職員就業規則等の改正について

職員就業規則等の改正について説明があった。

(2) 各事業について

令和5年度から新たに開始した助成事業について説明があった。主な意見は以下のとおり。

- 令和5年度の公募については、ハイレベル枠の申請から一般枠に採択されているものがあるということか。また、令和6年度の公募については、少し減少しているものの、令和5年度と同程度の申請数となっているという理解でよろしいか。
- ご認識のとおりである。
- 令和6年度については、高等専門学校からの申請状況はいかがか。
- 高等専門学校の申請数については、令和5年度と比較し、令和6年度は増加している。
- 令和5年度の支援2の内訳はどうなっているか。
- 令和5年度は国立大学が大半を占めていたが、令和6年度は私立や公立の申請も増加している。

以上